

健保連

かながわ

第333号

令和7年1月



ホームページアドレス <https://www.kenpo-kanagawa.or.jp>



令和7年という節目の年を迎えて

皆さま、明けましておめでとうございませう。

会員健保組合の皆さまにおかれましては、すがすがしい新年をお迎えになられていることとお喜び申し上げます。

生まれてこのかた、新年に言い続けてきたこの「明けましておめでとう」ですが、どうしておめでたいのか？を調べましたら、昨年いっばい無病息災で生活を終えることができ、晴れて新年に年神様をお迎えできたからおめでたいのだ、と書いてありました。

新年より旧年にその言葉の重心がある点が感慨深いと思いますし、皆さまにおかれても文字通り昨年の健保組合活動に思いを致す方々も、多くいらつしやるのではないでしようか。

まずは皆さまには、昨年、総会、部会、講演会、4委員会、WG等数々の神奈川連合会の事業運営にご理解と惜しみないご協力を賜り、この場を借りて心より御礼申し上げます。

昨年2024年を振り返ってみますと

実にいろいろな事件がありました。世界を見渡すとウクライナ侵攻が長期化し支援疲れが指摘されるに至った一方、イスラエルのガザ侵攻は停戦の呼びかけ空しくかの地を殺戮の場としています。米大統領選も大方の予想を覆してトランプ氏が大統領の座を射止め、MAGAの合言葉とともに保護主義的な動きが世界に広がるのではと巷間言われています。

日本国内に目を移せば政治資金問題が表面化し、政治課題を語らないエンタメ選挙化した衆院選が与党を大敗させ、政治体制にも大きな変動をもたらしました。大谷選手の大活躍やDENAの優勝など（横浜市民にとっては？）朗報もありましたが、総論的にはまさに内憂外患ですし、それら国内外の諸問題が、陰に陽に健保組合運営にも影を落とす気配もあり予断を許さない状況と思っています。

わが健保業界においても、エポックメイキングな「被保険者証新規発行停止」となった年でもありました。会員健保組合におかれても通常業務に加えての発行停止対応、順次決まりゆく厚労行政への並走に追われた毎日ではなかつたでしょうか。適切・タイムリーなご対応、誠にありがとうございました。

令和7年は2025年。「2025年問題」の本命の年となります。高齢化はもちろん、医療高度化による医療費の高波が真綿が締まるように保険給付費・高齢者納付金に連動し、健保組合解散の危機感を横目にする荒波の時代が到来したのだと思います。2025年だから何か事件が勃発するわけではない、真綿が締まるような不可逆的な動きが知らぬうちに深刻化していくこと、その状況こそが怖いことなのだと思います。

今年も参院選もあり、政治動向が健保行政に影響を与える可能性もあるなか、長年親しんだ被保険者証とも別れを告げる（資格確認書で代替されつつも）節目の年でもあります。加えて後期高齢者の現役並み所得者への公費投入、子育て支

援金・介護保険・医師偏在対策、かかりつけ医制度・支払基金改革…等々書ききれないほどの健保課題が山積状態の2025年となっています。



健保連神奈川連合会
会長 篠原 正泰

人口が減少し人口構造も高齢シフト、会社の発展だけでなく社員のQOLが経営課題に入ったり、ユニバーサル（統一）からダイバーシティ（多様性）を尊重するなど、成長一辺倒から成熟の朱色をどこまで輝かせるかを問う質的な昇華が日本に起きていると感じます。最近GD P（国内総生産）からGDW（国内総充実＝Gross Domestic Well-being）などという言葉も聞かれるようになってきました。

2025年も健保が最終的に目指すのは「加入者の笑顔」。

社会環境の色が変化しつつあることを感じつつ、もろもろの諸課題に連合会一丸となって対峙し、対応してまいりたいと思います。

本年も改めて、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

AIの活用で業務の効率化を

「秋の講演会」が10月3日、ホテルプラムで開催され、富士通(株)執行役員の古濱淑子氏と同社AI活用推進マネージャーの浅間康太郎氏に、「AIが切り拓く健康経営の未来：ウェルビーイング社会の実現に向けて」をテーマとしてご講演いただきました。44健保組合から会場68名、オンライン42名（他県連合会関係者を含む）、計110名が参加されました。

つながっていないデータは活用できない

少子高齢化が進み、かつて労働者7・4人で1人の高齢者を支えていた社会は、今や1・8人で1人を支えています。このままでは日本は衰退していく一方であり、生産性の向上が必要です。労働集約型で仕事をされている医療・介護の現場などでは、将来が非常に危ぶまれています。医療業界では関係者の利害関係が一致せず、デジタル化が進んでいません。そこで、パリエューベースヘルスケア（患者価値ケア）という新しい視点に注目したいと思っています。関係者の垣根を取り払い、医療成果の最大化とコスト適正化を共有し、患者価値の最大化を目指すという考え方です。



▲古濱淑子氏

限られたリソースのなかで、課題の解決を効率的に進めるには、全体感をもったデータ活用の仕掛けが必要であり、医療DXの重要な考え方もあります。健診や診療データ、健保組合や自治体のデータなど、さまざまなデータはつながっていないだけで活用できず、活用できなければ有効な新しい手も打てません。

AIを活用して健康経営の推進も

富士通はヘルスケアデータの活用を通じ、個人起点のデータ連携と多業種との共創によって「診療・治療」から「予防・健康」へのシフトを進めています。医療機関や製薬企業、保険者などに向けてさまざまなデータの活用を提案しており、健康経営への取り組みもこれらの一環といえます。

富士通における健康経営への取り組みでは、「疾

患の予防・早期発見」「行動変容を仕掛ける仕組み」「取り組みの可視化・改善」を進めています。AIが検査データから疾病リスクを提示し、それをもとに行動変容を起こした取り組みからの脱落防止を支援し、さらに財務や人事データも組み合わせ、因果関係を分析することで従業員のウェルビーイングを実現しようという狙いです。

驚異的に躍進する生成AIは文章や画像の生成だけにとどまらず、音声やプログラムなどへの応用が拡大中です。資料の作成や要約、保険給付、保健事業の企画立案、健康増進に関する最新情報の収集など、AIをさまざまな領域で活用することで、日々の業務を効率化していきましょう。

AIを使うためにAIを使う段階へ

富士通社内では、AIによって業務をどれだけ効率化できるか、日々その可能性を模索している浅間氏は、AIの実際の使い方をデモンストレーションを交えて説明しました。



▲浅間康太郎氏

浅間氏が「AIを活用して、従業員の健康をサポートするいいアイデアは？」とAIに問い掛けると、「さまざまな健康データを分析して、従業員一人ひとりに合わせたアドバイスを提供する」「チャットボットを使い、メンタルヘルスに関するサポートをさせる」などの返答がありました。

このほか、効率的な生産計画を立てる際に使うAIなど、専門的に使うことが難しいAIを活用するためにAIを利用する点にふれ、「すでに、AIを使うためにAIを使う段階が訪れています」と述べ、参加者に意識の変革を訴えました。

特集

現役世代を守るための改革断行を！

健康保険組合連合会は10月24日、「現役世代を守るための改革断行を！2025年を乗り越え、未来につながる皆保険制度に」をテーマとして東京国際フォーラムで、令和6年度健康保険組合全国大会を開催しました。全国の健保組合関係者約1,200名が来場し、ウェブ配信で2,000名以上が視聴しました。



医療給付費も拠出金も増加傾向がさらに強まる

冒頭に基調演説を行った宮永俊一会長は、少子化・人口減少や2025年問題等に触れ、「私たち健保組合、医療・社会保障を取り巻く環境は年々厳しさを増しています」と話しました。令和5年度の健保組合全体の決算見込みについて「経常収支が1,367億円の赤字となり、経常赤字は2年ぶりで、1,000億円を超える赤字は平成25年度以来10年ぶりの大きさです。赤字組合は全体の5割を超える726組合にのぼります。保険料収入は賃上げの影響で2.7%増加しましたが、医療給付費は5.3%、高齢者医療への拠出金は7.3%と大きく増加し、特に後期高齢者支援金は10%近くも増えています」と述べ、「このような傾向は、これから高齢化のピークを迎える2040年ごろにかけてさらに強まると見られます。政府は全世代型社会保障制度の構築に向けた改革を進めてきましたが、制度の安定と持続性を高める

にはさらなる改革の断行が不可欠です」と強調しました。

医療・介護分野のDXを一層前に進める必要

宮永会長は「患者や国民が真に良質かつ効率的な医療サービスを受けられるようにするためには、医療・介護分野のDXを一層進めていく必要があります。何より私たち保険者が加入者の健康を守るために、これらの課題にしっかりと取り組んでいかねばなりません」と述べ、大会のテーマは以上のような状況認識に基づくものであるとして、4つのスローガンを解説しました。

●皆保険を全世代で支える持続可能な制度の実現

存続の危機に直面している皆保険制度を全世代で支える仕組みに改革するため、前期高齢者の年齢を70歳以上に引き上げることや、74歳までの窓口負担を原則3割にするなどの制度改革を実行すべき。

●医療の効率化に資する医療DXの推進

マイナ保険証のメリットを国民が実感

していくためには、国が責任をもって「全国医療情報プラットフォーム」を構築し、電子処方箋の普及や電子カルテ情報の標準化などを着実に進めていくことが必要。

●安全・安心で効果的・効率的な医療提供体制の構築

来年度から始まる「かかりつけ医機能報告制度」をしっかりと軌道にのせ、国民にとって分かりやすく、安全・安心で効果的な医療提供体制を構築していかねばならない。

●健康寿命の延伸につなげる健保組合の役割強化

第3次「健康日本21」と連携し、第3期データヘルス計画、第4期特定健診・特定保健指導、第4期医療費適正化計画等を踏まえ、医療DXを活用してこれまでに以上に保険者としての役割を強化、先駆的な取り組みを実施。

決議を厚労大臣に手交し、実現を強く要請

以上のスローガンを含む決議文案を東芝健保組合の二宮史明常務理事が朗読し、大会決議として満場一致で採択されました。この決議を宮永会長が福岡資麿厚生労働大臣に手交し、実現を強く要請しました。

議事終了後に、特別企画として「安心・安全な医療と全世代型社会保障制度への改革」をテーマとした講演があり、その後、参加者は大会決議をもって関係各方面への要請行動に移りました。

最近あった「久しぶり」3篇

レイズネクスト
健康保険組合
常務理事
黒澤 健治



▲おしゃれな名盤がズラリ

久しぶり①「原稿」

当健保組合の母体であるレイズネクストの前身企業、新興プランテックが毎月発行していた社内報の編集後記を担当していたことがある。

初めて執筆したのが東日本大震災の発生と重なる2011年4月号で、会社の合併を翌月に控えた2019年6月最終号までの8年間はかなりの長丁場であったが、約100号分を何とか書き通すことができた。当初は編集後記の本来の位置づけに沿って記事内容や編集時の苦労話などを書こうと謙虚な気持ちでいたが、毎号約400字の文章を書き重ねていくうち脱線していき、いつしか「世間一般の出来事・話題」や「気候・自然現象」がテーマとなり始め、あげく終盤は、「自身の日常体験談・感想(ボヤキ)」へと変遷を遂げてしまった。今振り返ってみるとそれぞれ当時の自分の思いなどを記されており、私自身にとっては月刊の日記のように読み返せてうれしいが、他の方々の受け止め感はどのようなものであったか定かでなく少々反省している。

今般、広報誌「健保連かながわ」の『随想』執筆依頼があり、2019年6月以来「久しぶり」に原稿書きを始めたが、テーマは「自由」と承ったので懲りることなく些末な私事を幾つか選ぶこととした。

久しぶり②「レコード」

空き家になっている実家を取り壊すことになり、荷物を整理していたところ古いレコードが出てきた。ほとんどは学生時代に買い集めたものだ。長らく納戸の奥に入れっぱなしだったのでどのジャケットもかなり色あせている。すっぱり処分しきれず何枚か持ち帰ったのを機にレコードプレーヤーを購入した。今更本格的に聴くわけでもないのでも質素なポータブルのもの。「久しぶり」にお気に入りだったレコードに針を落とす瞬間は、わずかだがときめきがよみがえる。当時本や雑誌を読んだりしながら聴いた、深夜FMラジオの音楽番組から流れる楽曲に引かれレコードを購入

したことを思い出す。今はコーヒーカップを片手に読もうとした少しかび臭いライナーノーツの文字がかすむが、これには最近調達した拡大眼鏡が重宝しありがたい。ガクンと減った読書量もすこし持ち直さねばと思いい、次の休日は足が遠のいている本屋か図書館をのぞくことにしようとした。



▲ライナーノーツを読むために……

久しぶり③「同窓会」

学生時代の気が合う連中との集まりがあった。「久しぶり」の同窓会への参加人数の多さは、ほぼ全員が定年年齢に達し仕事上の節目を迎え気持ちにも一段落ついたことや、帰宅時間や休日の単独行動に家族(奥さん)が寛容(気にも留めない?)になったおかげではないかと勝手に推測している。

2時間程度の飲食の間、互いに体調や日常の過ごし方など近況を確認の後は、他愛もない昔話に花が咲く。以前の会でも毎回大笑いした大昔のエピソード話が今回も蒸し返され、「これってデジャブ?」と皆感じているはずだが、やはり盛り上がってしまう。個々それぞれで微妙にずれている事実関係認識の記憶を重ね合わせながら、細かなシーンの再検証が進み一応まとまりがつく。そんなこんなで次回また元気な姿で再会しようと握手を交わし無事散会、家への土産を買って帰路についた。

今回卒業以来40数年間まったく接点がなかったMと再会できたのはうれしい収穫であった。住まいがそう遠くないこともわかり、近々また会おうと交わした約束が楽しみとなっている。

取り留めのない拙文にて<了>

日々の業務に生かすため、 関係職員が熱心に受講

7月から11月にかけて、医療費対策委員会による柔整等療養費勉強会・基礎編、健康開発事業委員会による保健事業勉強会、組合業務推進委員会による新任事務長講習会、適用・給付業務講習会が開催され、多数の関係職員が「日常業務に生かそう」と熱心に受講しました。

7/22

柔整等療養費勉強会・基礎編（神電けんぽ会館 Web併用）

柔整療養費適正化に 患者照会は極めて効果的

柔整等療養費勉強会はWeb併用で行われ、他県の連合会からも多くの関係者が参加しました。開講に先立ち医療費対策委員会の二宮委員長が挨拶し「柔整療養費に関しては、施術者側の不適切な対応や、かかる方の知識が不十分なことなどから、適切でない給付申請や、トラブルにつながることがあります」と話しました。

この勉強会はガリバー・インターナショナル（株）の協力で実施され、講師の同社・木村氏は「柔道整復とは」「柔整療養費と適正化」など柔整療養費の基礎知識について解説しました。このなかで、「柔整療養費の医療費通知の徹底」や「多部位、長期、高頻度



▲柔整等療養費勉強会：基礎編の模様

の施術を受けた被保険者等への調査」を求めた厚生労働省通知以降、療養費の減少傾向が続いていることを紹介し、「患者照会は柔整療養費適正化に極めて効果的な手段であり、長期受療者対策には定期的な縦覧点検が勧められます」と強調しました。

続いて同社の渡邊氏が、「柔道整復及びあはき療養費支給申請書の点検ポイント」をテーマに講演しました。渡邊氏は形式審査や受療者照会、突合点検などについて解説し、令和6年10月施行の改定を踏まえて具体的な点検ポイントを紹介しました。この中で患者ごとの償還払いへの変更について「照会未回答者に対して、償還払いになるという制度があることをお話しすると、回答拒否のトーンが下がることがあるため、こうした制度の案内をしていくのは効果的かと思われま

9/4 保健事業勉強会（神電けんぽ会館） 論理や科学的アプローチをもとに 保健事業の提供を

保健事業勉強会は（株）JMD C 保険者支援事業本部 データヘルス研究所の方を講師にお招きし「保健事業に必要なデータ分析方法解説セミナー」として実施さ



▲保健事業勉強会の模様

れました。最初に挨拶した健康開発事業委員会の上野委員長は保健事業について、「本日の講演のような論理性を持った科学的アプローチをしっかりと行う、健保組合同士で連携し交流する、さまざまな情報の中から自健保組合のために何がベストなのかを自分たちで考える」といった活動からよりよい答えを探していければ」と話しました。

講演で同社・工藤氏は「総合評価指標の見直し」について、「健診関連中心から、今後はもつと保健事業全般に対応していくことが求められると見られていま

す」と述べました。また、医療費増減分析のポイントとして「加入者数や受診日数などの要因全体の変化を正しく把握し、仮説を元に深掘りする」「患者数や医療費の増加は悪いことと決めつけず、分析結果を正確に読み解く」「保健事業でアプローチが行える疾病を中心に深掘りする」の3つを挙げました。

う際には「医療費分析から把握できた課題を踏まえて特に優先順位の高い課題を把握する」「優先順位の高い課題の年代・資格区分など分析や効果検証を行い、本当にうまくいっているのか、対象が正しいのかを検討する」「これらの分析や検証で把握した効果や課題を踏まえ、介入方法や対象、アウトプット・アウトカムの見直しを行う」ことがポイントになると話しました。

9/18

自己点検シートの基準、 指針、法令などの確認を

新任事務長講習会（液止場会館）

冒頭、挨拶した組合業務推進委員会の板倉委員長は、「事務長は組合業務の実務における中核・要である分、自分の行っていることは十分なのか不安もあるのではないだろうか。こうした不安を確信に変えていくのが、本日の研修の目的です」と述べました。講習会では、まず講師の佐藤（輝）委員が事業運営基準を中心に、同運営指針などについて解説し、「運営基準と運営指針はすでに読んでいらっしゃるとは思



▲佐藤（輝）委員による講習



▲五十嵐委員による講習

いますが、健保組合を運営する上での中核的な理念ですので、事務長として知っておくべきものです」と述べました。また、適切な事務処理のための「自己点検シート」については「基準や指針、法令などから引かれた点検項目が相当数ありますので、その場合は必ず明記されている基準などを確認してください」と呼び掛けました。

続いて講師の五十嵐委員が関東信越厚生局の令和5年度健康保険組合実地指導監査における主な指摘事項を解説し、それぞれの指摘の根拠や指摘への対応などを紹介したうえで、「厚生局は組合業務が法令、通知、規約、規程に則っているかを監査して指摘しています。この機会に法令などをご覧になり、組合で行っている業務がそれらに基づいているかを見直すことが監査対策となります」と話しました。

11/22

適用・給付業務講習会（ホテルプラム） 活発に意見・情報交換。 交流でネットワークづくりも

適用・給付業務講習会では、受講者は「適用」「給付」

それぞれ3班に分かれ、各健保組合が日頃の取り組みについて質問・回答し合った事例集をもとに、講師の組合業務推進委員のアドバイスを受けつつ議論する形で進められました。板倉委員長による「講師の方も含めて参加された皆さんは、お互いに健保業務を進めて



▲適用・給付業務講習会の模様



▲2班（適用）の講習風景



▲4班（給付）の講習風景

いく上での大切な仲間になると思いますので、ネットワークもぜひ広めていただきたい」との開講の挨拶どおり、意見・情報交換が活発に行われ、参加者同士の交流も深まりました。

2班（適用）では被扶養者認定などについて議論し、「別居の家族等の認定における送金確認」に関する質問へのアドバイスとして勝井委員は、「本人の報酬月額、賞与額の確認と併せて、生計費調査を本人と家族の両方にするべきかと思えます」と述べました。また、4班（給付）では佐藤（達）委員が「適用や給付の業務では1+1が2になるとは限らず、微妙な解釈で着地をすることもあります」と話し、このような場合に他健保組合の取り組み事例を生かすことを勧め、受講者は傷病手当金や柔整療養費などについて議論を深めました。

最後の講評で堤事務局長は「適用」で議論された「検認における仮想通貨の取り扱い」について、「75組合あれば必ずどこかで、このような時代を先取りしたテーマが発生します。そうした時代の流れに即した対応を学ぶことも、皆さんにとって必要なことかと思えます」と述べました。

そこが聞きたい
保健事業

組合訪ねある記



Johasけんぽ

労働者健康安全機構健康保険組合

専門的な知見をPDCAに取り込み、 コラボヘルスを推進



▲健保組合スタッフのみなさん



▲明るく広々とした健保組合事務所

聞き手 ● 長峰、小坂橋（広報委員）

母体からの知見を受けて、
連携できる点が強みに

独立行政法人労働者健康安全機構（J-OHAS）は、厚生労働省所管の法人です。「勤労者医療の充実」「勤労者の安全向上」「産業保健の強化」を理念に掲げて勤労者一人ひとりの人生を支える役割を担い、中期目標に基づいて中期計画及び年度計画を策定し、各種事業を実施しています。

同機構では労災病院、労働安全衛生総合研究所、産業保健総合支援センターなどの運営を行っており、勤労者医療の推進、労働安全衛生分野の調査・研究、産業保健活動の支援、未払賃金の立替払い事業など様々な事業を通じて、労働者の健康と安全の確保、福祉の増進に寄与し

ています。

労働者健康安全機構健康保険組合は、昭和31年に設立されました。令和6年3月現在、被保険者22,606人、被扶養者10,946人、被保険者平均年齢41・98歳、健康保険料率は89・00%です。設立母体が健康に関するプロフェッショナルであるため、保健事業を行う際には、専門的な知見を受けながらコラボヘルスできる点が、健保組合の強みになっています。

第3期データヘルス計画は 11事業+新規事業を策定

今年度からスタートした第3期データヘルス計画では11事業を策定し、特定健康診査・特定保健指導の実施率向上、健康支援アプリPeP UP登録率向上、子宮頸がん検診・歯科対策の強化を重点事業としました。また新規事業には、被保険者の約7割が女性であることから、女性の健康支援の強化などを加えています。

PeP UPは保健事業の基盤に位置付けているため、登録率50%を第2期目標値に掲げていましたが、導入以来低迷していました。そこで、オンライン等を活用し、全国の事業所に登録率の良好な事業所を好事例として紹介するなど利用促進に努めたところ、1年前倒しで目標を達成できました。第3期は80%を目標に掲げています。

特定健診受診率（令和4年度）は、被

保険者95・2%、被扶養者43・6%で被扶養者の受診率の低さが課題です。従来受診券や受診はがきの送付に加えて、2年度からは健診代行機関を利用し、予約や請求ができるようにしたところ、受診率は徐々に増えています。今年度はさらに、2年間健診を受けていない人を理由別に分類し、受診はがきを送付するアプローチや、他健保組合との共同で「かかりつけ医でのみなし健診」を実施することも検討中です。

特定保健指導は、被保険者については事業主の協力を得て就業時間内に実施していますが、ここ3年の実施率は32%前後と決して高くありません。対象者の約6割がリピーターであること、さらに医療従事者であるため、初回面談の後は「自分で管理できるから」とやめてしまうケースが多いことが、その理由です。このため、労災病院を中心に毎年打合せを行い、利用勧奨を依頼するとともに、リピーターでも飽きずに続けられるよう、フィットネスクラブの動画や健康食の提供を行うなど、プログラムに工夫を加えています。

子宮頸がん無料郵送検診で一定の手厚さを

人間ドックは30歳以上の加入者が対象で、補助限度額は45,000円です。医療機関も受診項目も限定していません。第2期データヘルス計画の目標受診

率24%に対し最終年度は32・1%と目標を達成しました。PeP UPから請求できるのも好評です。

歯科検診は全加入者を対象に5,000円を補助し、歯垢・歯石除去やフッ素加工まで受診可能ですが、第2期の平均は0・7%と低調でした。このため今年7月に、過去3年間歯科を受診していない人や、疾病リスクが高い18歳以上の加入者に対して歯科受診勧奨を実施しています。

女性の健康支援の強化については、男性にも女性の健康を理解していただくことを目標に進めています。ホームページに女性の健康ページを作成し、東京都保健医療局の「TOKYO#女子けんこう部」とリンクして、健康チェックやケアについて発信しています。子宮頸がん検



▲健保組合ホームページ。東京都保健医療局の「TOKYO#女子けんこう部」とリンクも

診は、人間ドックの対象とならない30歳未満の女性被保険者に6,400円を補助していますが、第2期の平均受診率が0・7%だったため、今年度から郵送検診を無料で開始しました。現在4,000人に配布して600人の申し込みが確認できており、一定の効果があると考えています。

データを詳細に分析し、「ラボヘルスの次の一手」を

医療従事者に多い腰痛などの予防を目的として、PeP UP上でウォーキングイベントを年2回実施しています。適用事業所が全国にあるため地域特性を考慮し、今年度から実施期間を事業所の希望で決められるようにしました。

インフルエンザ予防接種等の補助は、コラボヘルスの一環として行っています。被保険者の9割が労災病院職員であるため、各事業所の裁量で院内実施しており、1人当たり4,000円を補助しています。

広報活動のツールでは、ホームページと健保だより、健康コラム、PeP UPを活用しています。4年度からは広報誌の紙媒体廃止をはじめ、補助金請求書などのペーパーレス化を進め、PeP UPから補助金申請（電子申請）ができるよう整備しました。これに伴い、ホームページを大幅にリニューアルしたところ、年間アクセス数が以前の倍の1万件に達し

ています。

また、特徴的な事業としてデータ分析があります。健保連の分析システムを利用して、医療費や有病者数などを他健保組合や業態健保組合と比較し、さらに委託業者のシステムを使って、自健保組合の状況を深掘りします。これらの結果を、産業医科大学データサイエンスセンターと15健保組合の共同分析で確認し、検証を行っています。客観的に分析結果を見ることが正しく現状を把握し、次の一手に活かすことが可能です。

保健事業を実施するに当たり、最も重視している点がコラボヘルスです。PeP UP登録率も、保健指導実施率も、目標達成には母体や事業所との連携が不可欠です。このため、全国32の労災病院とオンライン打合せを行うとともに、健保だよりで労災病院等の職員からの寄稿を掲載し、さらに関東労災病院治療就労両立支援センター実施の講演会や講習会に健保組合スタッフを参加させ、スキルアップを図ることで良質な保健事業の提供に努めています。

組合会や理事会、データヘルス計画の推進委員会にも医師や看護師等の医療従事者が参加しているため、PDCAの全般にわたって、専門的な見聞からアドバイスを得ることが可能です。母体とのコラボヘルスをさらに進めつつ、今後どんな健康支援を進めていくのか楽しみです。

神奈川連合会日誌

当連合会の令和6年7月から令和6年11月の行事は、レセプト講習会、新任事務長講習会、適用・給付業務講習会の各講習会と、柔整等療養費勉強会、保健事業勉強会、専門職のための勉強会の各勉強会を開催した。
その他、各委員会の開催、常任理事会、秋の講演会を開催した。

なお、秋の講演会については富士通株式会社執行役員古濱淑子氏をお招きし、「AIが切り拓く健康経営の未来：ウェルビーイング社会の実現に向けて」をテーマにご講演いただいた。

●常任理事会

10月10日(木)
連合会事務所

●広報委員会

7月19日(金)
連合会事務所

●組合業務推進委員会

9月27日(金)
連合会事務所

10月15日(火)
連合会事務所

11月8日(金)
連合会事務所

●医療費対策委員会

9月2日(月)
連合会事務所

●健康開発事業委員会

8月27日(火)
連合会事務所

11月29日(金)
連合会事務所

●三者行為求償セミナー (愛知連合会と共同開催)

7月3日(水) ライブ配信

●歯科レセプト研修会 (愛知連合会と共同開催)

7月19日(金) ライブ配信

●柔整等療養費勉強会…基礎編

7月22日(月)
神電けんぽ会館

●柔整師会意見交換会

8月28日(水)
新横浜グレイスホテル

●特定健診・特定保健指導セミナー (愛知連合会と共同開催)

9月3日(火) ライブ配信

●新任事務長講習会

9月18日(水)
波止場会館

●保健事業勉強会

9月4日(水)
神電けんぽ会館

●秋の講演会

10月3日(木)
ホテルプラム(Web併用)

●レセプト講習会…基礎編

10月8日(火)
神奈川審査委員会事務局



▲9月4日 保健事業勉強会



▲8月24日 健保連かながわ100キロウォーク



▲10月26日 健保連かながわ100キロウォーク

●支払基金との事務連絡会

11月28日(木)
神奈川審査委員会事務局

●専門職のための勉強会 (睡眠に関する講習会)

11月13日(水)
神電けんぽ会館

●療養費専門部会 勉強会 (愛知連合会と共同開催)

11月21日(木) ライブ配信

●適用・給付業務講習会

11月22日(金)
ホテルプラム

●健保連かながわ100キロウォーク

7月27日(土) 木漏れ日を
追って緑道をめぐる

8月24日(土) 水と緑豊かな
木陰の緑道をめぐる

9月28日(土) 酒匂川左岸
ひょうたん池と最明寺

10月26日(土) 東扇島と海
底トンネル

11月23日(土) 伊勢原の田
園巡り

園巡り



▲11月23日 健保連かながわ100キロウォーク



▲11月22日 適用・給付業務講習会

組合業務 相談室

取扱状況(7~11月:21件)

- ▽適用関係……………1件
- ▽給付関係……………15件
- ▽経理関係……………3件
- ▽庶務関係……………0件
- ▽保健事業関係……………0件
- ▽その他……………2件

●相談予定日
随時受付

第三者行為 相談室

- 取扱状況（7～11月：6件）
- ▽衝突・追突・接触事故……0件
- ▽過失相殺……1件
- ▽自賠償・任意保険……0件
- ▽休業補償……0件
- ▽給付制限……0件
- ▽ひき逃げ・無免許……0件
- ▽好意同乗……0件
- ▽傷害事故……0件
- ▽示談……0件
- ▽請求関係……0件
- ▽自損事故……0件
- ▽示談後の健保使用……2件
- ▽その他……3件
- 相談予定日
随時受付

柔整療養費 相談室

- 取扱状況（7～11月：3件）
- 相談予定日
随時受付

法律相談状況

- 取扱状況（7～11月：1件）
- ▽個人情報関連……0件
- ▽第三者行為関連……0件
- ▽保険料未納関連……1件
- ▽資格喪失後受診関連……0件
- ▽その他の損害賠償等……0件
- ▽その他……0件



川崎部会

- 定例部会
8月2日（金）
東芝スマートコミュニ
ティセンター
22組合 34名

職員研修会(2)

- 9月26日（木）
H.U.Bioness Complex
AkrunoCube 見学
14組合 24名
- 健康づくり行事
10月11日（金）
川崎グラウンドボウル
14組合 39名



▲9月26日 川崎部会 職員研修会(2)



▲11月15日～16日 川崎部会 現地視察研修会

現地視察研修会

- 11月15日（金）～16日（土）
ダスキン仙台中央工場、
南部山浄水場、石巻地区
震災学習プログラム体験
等
11組合 12名
- 行事予定
12月6日（金）
定例部会
3月7日（金）
予算総会

みなと部会

- ボウリング大会
9月6日（金）
ハマボール
15組合 65名
- 常務理事・事務長研修会
10月18日（金）～19日（土）
四季防災館、相倉合掌造
り集落等視察
16組合 22名
- 事務研究会
11月12日（火）
神電けんぽ会館
15組合 36名
- 行事予定
12月4日（水）
12月度例会（次年度事業
計画）
3月7日（金）
3月度例会（予算）

湘南部会

- 職員研修会
9月6日（金）
大光山宝徳寺、ガトー
フェスタハラダ等視察
16組合 28名



- 部会・特別研究会 I
9月12日（木）
A M D F O R U M
16組合 41名
- 部会・特別研究会 II
11月14日（木）
神奈川県協同健保会館
15組合 53名
- 行事予定
3月14日（金）
予算総会

総合部会

- 保健事業等研修会
7月10日（水）
ホテルプラム
35組合 54名
- 特別研修会
9月5日（木）Web併用
ロイヤルホールヨコハマ
37組合 73名
- 一般教養研修会
(1)10月2日（水）
22組合 60名
(2)11月13日（水）
25組合 63名
- ロイヤルホールヨコハマ
行事予定
12月5日（木）
時勢研修会
3月12日（水）
定例総会（予算）



厚生労働大臣表彰受賞 (敬称略)

健康保険組合名	現職名	氏名
神奈川県協同健康保険組合	保健事業課 課長	露木 但司



露木 但司

令和6年度健康保険組合関係功労者の厚生労働大臣表彰式が、令和6年11月18日(月)ベルサール虎ノ門(住友不動産虎ノ門タワー2階)において開催され、神奈川県連合会から上記の方が受賞されました。誠にありがとうございます。

謹賀新年

本年はメンバーも新たに、さらに読みやすく、皆さまに親しまれる会報をお届けいたします。

令和7年元旦 広報委員一同



後列左から：川崎委員、澤田委員、
前列左から：長峰副委員長、内藤委員長、坂本委員、
丸囲み左から：堀田委員、重松委員

明けまして
おめでとうございます

昨年は当連合会にひとかたならぬご理解とご協力をたまわり、誠にありがとうございました。本年は新しい態勢で、さらなるサービスの向上に努めてまいります。

令和7年元旦 神奈川県連合会事務局

左から…吉川課長、太田課長、赤塚職員、
浅沼課長
丸囲み…堤事務局長



編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は神奈川県連合会の事業運営にご支援、ご協力を賜りありがとうございました。

昨年はパリオリピックの開催や、新紙幣の発行など話題の尽きない年となりました。オリピックは開催地がパリということもあり、寝不足になりながら応援した方も多いのではないでしょうか。次回のロサンゼルスオリピックも楽しみですね。

さて、昨年には被保険者証新規発行停止という大きなトピックスがあり、健保組合にとって大きな節目の年となりました。課題山積みの状態で新年を迎えましたが、健保組合・健保連が相互の連携を強化し、一丸となって乗り越えていけるような体制づくりを目指してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

発行 健康保険組合連合会神奈川県連合会

横浜市中区尾上町四ノ四七

(リスト関内ビル)

電話 〇四五(組)七三七〇

FAX 〇四五(組)三七六五

